

平成 30 年 6 月 7 日現在

機関番号：33910

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2017

課題番号：24593415

研究課題名(和文) 緊急帝王切開に対する妊婦の適応力を高める出産準備教育プログラムを用いた介入研究

研究課題名(英文) The Intervention Study with the Program of Perinatal Education for Adaptation to Cesarean Section in an Emergency

研究代表者

横手 直美 (YOKOTE, Naomi)

中部大学・生命健康科学部・准教授

研究者番号：10434573

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、緊急帝王切開(以下、緊急帝切)に対する妊婦の適応力を高めるために、帝切に関する包括的な出産準備教育プログラム(PEACE)を開発し、妊娠後期にPEACEを実施して、産褥1か月までの介入効果を評価することであった。

2013～2014年度は、帝切経験者を対象としたネットリサーチと帝切既往経膈分娩の試行(TOLAC)を経験した女性への面接調査を実施した。2015～2016年度はPEACEの開発と教育媒体の小冊子作成、医療専門職および一般人を対象としてシンポジウムとセミナーを開催した。2017年度は研究協力施設の通常の妊娠後期の母親教室で、PEACEを用いた介入研究を行った。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to conduct an intervention study with a comprehensive program of Prenatal Education for Adaptation to Cesarean birth in an Emergency (PEACE) to the late pregnant women and evaluate its effect up to one month after surgery.

In 2013-2014, we conducted a net research for Japanese women who actually experienced cesarean birth. Also, we conducted an interview with women who experienced Trial of Labor After Cesarean section (TOLAC). For the period from 2015 to 2016, we organized a symposium and seminar for medical professionals and the general public in order to develop and modify PEACE and return research results, and created a booklet as educational tool. In 2017, we conducted an intervention study using the booklet in the late pregnant women's class of the research cooperation facility in the late pregnancy.

研究分野：生涯発達看護学

キーワード：緊急帝王切開 出産前準備教育 ト라우マ PTSD 適応 TOLAC

1. 研究開始当初の背景

わが国の帝王切開分娩（以下、帝切）率は平均 20%と上昇しているが、分娩施設での出産準備教育やメディア・雑誌による情報提供は依然として経膈分娩中心であり、女性が緊急帝切となった場合、分娩に対して強い否定的感情やトラウマを抱きやすい。

緊急帝切は母子の安全性のために行われる医療処置であるにもかかわらず、母親が前述したような不安定な心理状態となれば、母親の健康回復だけでなく、生まれた子どもへの養育行動にも悪影響を及ぼしかねない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、緊急帝切に対する妊婦の適応力を高めるために、妊婦に対して帝切に関する包括的な出産準備教育プログラム（Prenatal Education for Adaptation to Caesarean Birth in an Emergency : PEACE）を開発し、PEACE を用いた介入を実施し、介入効果を評価することである。

本研究の意義として、緊急帝切に対する妊婦の適応力を高めるためのプログラムの効果が認められた場合、その紹介を通してわが国の帝切に関する現状に即した出産準備教育の改善が期待される。また、研究成果を医療者だけでなく、出産年齢にある女性やその家族など広く一般に還元することで、帝切に関する偏見や情報不足が帝切後の女性を苦しめている現状を打破する一助となる。

3. 研究の方法

まず帝切経験者に対するネットリサーチおよび TOLAC（既往帝切経膈分娩試行）経験者に対する面接調査を実施し、実際にどのような帝切に関する情報や出産準備教育が求められているのか、当事者のニーズを把握した。

次に、これらの結果と先行研究を統合して、緊急帝切に対する妊婦の適応力を高める出産準備教育プログラムを開発し、教育媒体として小冊子を試作した。

また、2015 年 3 月に「帝王切開分娩の情報提供のあり方を考えるシンポジウム—女性はいつ、どのような情報を必要としているか?—」、2016 年 3 月に「出産準備教育における帝王切開分娩の情報提供を考えるセミナー—女性の適応力と出産満足度を高めるためにできること—」を名古屋市中で開催した。

医療者による小冊子に関するグループ・ディスカッションと調査票を通して得られた意見と、直近 1 年以内に出産した母親からの意見をヒアリングした後、修正を行い、「お産のときの『もしも』に備えよう～緊急帝王切開について」を完成した。

完成した小冊子を用いて、研究協力施設で介入研究を行い、プログラムの評価を行った。研究協力施設の通常の後期母親教室にて、緊急帝切に特化した情報を筆者らが開発した小冊子を用いて助産師が 15 分で提供し、

1 週間後に本プログラムの評価に関する調査票を回収した。

本研究は協力施設の倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号 2016-06）。また、担当者によって介入および調査方法に差異が生じないように、マニュアル作成後に綿密な打ち合わせを行い、実施した。

4. 研究成果

（1）帝切経験者を対象としたネットリサーチ

緊急帝切の介入プログラム開発に際しては、①日本人女性の特長や帝切に関するニーズおよび医療現場の現状を踏まえた内容、②妊婦の不安を過度に助長しないように構成された教育媒体を作成する、③実践現場で導入しやすいような形式でのプログラムとすることが重要である。そこで、2013 年度は、まず帝切経験者が妊娠中あるいは術前に得ていた帝切に関する情報や出産準備教育の実態を把握し、実際に経験した後の満足度から今後のニーズや要望を探ることを目的にネットリサーチを行った。

予定帝切、緊急帝切各 258 名、計 516 名からの有効回答を得た。帝切に関する情報や出産準備教育に対する理解度・満足度は概して低くはなかったが、2 群間の比較では、理解度・満足度ともに緊急帝切群のほうが予定帝切群よりも有意に低くネガティブな認識を持っていることが明らかになった。充実させるべき説明項目としては、手術のリスクとその対応策、術後の心身の回復のめやす、手術の方法、なぜ自分には帝切が必要かまたは適しているかの順にニーズが高かった。全体の 81%が通常の出産前教育で帝切に関する情報をもっと欲しいと回答した。

（2）TOLAC（帝王切開既往経膈分娩の試行）経験者へのインタビュー調査

TOLAC を志す妊婦は帝王切開後経膈分娩（VBAC）に成功するか、緊急帝切となるかによって、その出産体験は大きく異なる。そこで、TOLAC による女性の出産体験を知ることが目的とし、TOLAC 経験者 4 名（VBAC 3 名、緊急帝切 1 名）に半構成的インタビューを実施し、得られた逐語録をデータとして質的統合法（山浦、2012）によって分析した。具体的にはまず各ケースについて個別分析を行い、元ラベル 102 枚（A 氏）、143 枚（B 氏）、81 枚（C 氏）、131 枚（D 氏）から、最終ラベルとして各ケース 6 枚を得た。次に、その全ての最終ラベル 24 枚を総合分析の元ラベルとし、再び分析した。

総合分析の結果、最終的に 6 枚のラベルとなった。女性は帝王切開について自分が無知だったと責め、前回の出産体験の受容にも VBAC への挑戦にも苦悩していた。それだけに、TOLAC を実行するには女性は自分自身の覚悟と努力だけでなく、周囲の協力体制が不可欠であることと、TOLAC に伴うリスク

を理解したうえでVBACに挑戦していた。その一方で、TOLACに臨む女性は多くの不安を抱えており、助産師による出産方法選択時の情報提供や分娩ケア、産後の精神的ケアが女性の出産体験を左右すると考えられた。

(3) 緊急帝王切開に対する妊婦の適応力を高める出産準備教育プログラムの開発に向けたシンポジウムおよびセミナーの評価とブックレットの評価

2015年度は帝王切開分娩の情報提供のあり方を考える場としてシンポジウムを開催した。医師、帝王切開経験者、助産師・研究者の立場で4人のシンポジストが講演した。終了後に無記名式質問紙調査を実施した。参加者は94名で、内訳は助産師が65名で最も多かった。各講演内容の評価については、「よかった」が84~97%で大変好評であった。感想をテキスト分析したところ、「帝王切開」「情報提供」「経陰分娩」「PTG(心的外傷後成長)」「バースレビュー」「取り入れる」という言葉が関連しており、参加者が帝王切開における情報提供の重要性を強く認識したことが分かった。

2016年度は介入プログラムの教材として、ブックレット「お産のときの『もしも』に備えよう~緊急帝王切開について」を試作した(A5判全10ページ)。その後、開催したセミナーでブックレットに対する意見を助産師40名に求めたところ、「活用したいと思う」が62.5%だった。しかし、目的をもっとしぼるべき、文字が多い、活用ガイドが必要ではないか等の意見があった。さらに医療職者56名(助産師、看護師、産科医、麻酔科医)にブックレット閲覧後にアンケート調査を行い、産後1年以内の母親10名にヒアリングを行った。内容の有益性は認められたが、もっと緊急帝王切開に限定すること、レイアウト(文字数、イラスト)と施設間での汎用性を高める工夫が必要であると分かり、修正を行った。

(4) 緊急帝王切開に対する妊婦の適応力を高める出産準備教育プログラムの評価

後期母親教室にて介入後、858名の妊婦から調査票を回収した。助産師からの説明内容の理解度は、「よく分かった」42%、「大体分かった」56%だった。緊急帝王切開時のバースプランを「考えた」のは23%、「まだ考えていない(これから)」76%だった。緊急帝王切開への適応度の予測は、「自分なりに落ち着いて対応できそう」2%、「なんとか対応できそう」60%、「あまり対応できないと思う」10%だった。小冊子自体についての評価は、「とてもよい」57%、「まあまあよい」42%で概ね高評価だった。その理由として、自分に無関係ではないと認識した、心構えができた、イラストや説明が分かりやすい、等があった。

介入1週間後の妊婦の評価から、PEACEは緊急帝王切開に対する妊婦の理解を得ること

ができ、いざという時の心構えや対処行動を妊婦に促すことを期待できる。今後、実際に緊急帝王切開になった褥婦への調査結果をもとに本プログラムの評価を行う。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

- ① 横手直美、【現代帝王切開学】母性の立場から：母体に対する精神的サポート、周産期医学、Vol. 46、No. 9、2016、pp.1137-1140(査読無)
- ② 横手直美、帝王切開をしたお母さんの退院後のニーズと助産ケア、助産雑誌、Vol. 68、No. 2、2014、pp.124-129(査読無)
- ③ 横手直美、山下恵、竹内佳寿子、帝王切開分娩時の情報提供とバースレビューを考える：中範囲理論を用いた事例検討、ペリネイタルケア、Vol. 32、No. 2、2013、pp.91-99(査読無)

[学会発表](計 5 件)

- ① YOKOTE, N., YAMASHITA, M., OKAKURA, M., HASHIMOTO, T. Program to Prevent Traumatic Birth and PTSD in Japanese Women Undergoing an Emergency Caesarean Section. World Congress on Nursing & Nursing Education, 2017.
- ② 横手直美、鳥越郁代、山下恵、岡倉実咲、「出産準備教育における帝王切開分娩の情報提供を考えるセミナー」の開催報告、第57回母性衛生学術集会学会、2016
- ③ 横手直美、帝王切開のお母さんのこころのキズとその理由、第57回母性衛生学術集会学会(招待講演)、2016
- ④ YOKOTE, N., YAMASHITA, M., OKAKURA, M. Adaptation to, and satisfaction with, cesarean birth and related educational support among Japanese women, 第34回日本看護科学学会学術集会、2014
- ⑤ YOKOTE, N., YAMASHITA, M., OKAKURA, M. Japanese women's perceptions of informative support by medical staff with cesarean birth: an internet survey. 30th Triennial Congress of the International Confederation of Midwives, 2014.

[図書](計 2 件)

- ① 横手直美、メディカ出版、帝王切開のすべて(竹内正人編)、2013、pp.189-193、pp.194-200
- ② 竹内正人、細田恭子、横手直美、中央法規出版、ママのための帝王切開の本、2013、280

[その他]

・ホームページ等

帝王切開分娩をもっと理解してもらうために
～帝王切開分娩のママ・パパの応援サイト

<https://www.teiousekkai.jp/>

・成果報告書（総 45 頁）

研究協力施設ならびに送付希望のあった研究者、分娩施設に送付。

6. 研究組織

(1)研究代表者

横手 直美 (YOKOTE, Naomi)

中部大学・生命健康科学部・准教授

研究者番号：10434573

(2)研究分担者

鳥越 郁代 (TORIGOE, Ikuyo)

福岡県立大学・看護学部・教授

研究者番号：30217591

山下 恵 (YAMASHITA, Megumi)

中部大学・生命健康科学部・講師

研究者番号：70347425

岡倉 実咲 (OKAKURA, Misaki)

中部大学・看護実習センター・助手

研究者番号：40736740

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

なし